令和04年度　藤枝明誠中学校　学校評価の指標　　（期末学校評価）　　（評価の基準　A：十分に実践されている　B：ある程度実践されている　C：不十分　D：わからない）　　R5('23),3月

教育目標	「学園は教える者と、教えられる者とが、相互の信頼によって生かされる精神的な共同体である。」という理念の下、知・徳・体を錬成し、調和ある人間像を確立する。
経営方針	(1)「自律的な精神」、「思考力と創造的な知性と技量」、「自然愛や人間愛を大切にする豊かな情操」を培う。 (2)「日本人としての美徳を育て、実践的な社会性を養うとともに、国際化・情報化社会のフロントランナーとして、社会貢献できるフェアなリーダーとしての資質を培う。
本年度重点目標	Ⅰ知育の推進　Ⅱ　徳育の充実　Ⅲ　健康な身体の育成　Ⅳ　豊かな生活の追及　Ⅴ　家庭地域との連携　Ⅵ　生徒募集　Ⅶ　教育施設設備の活用

重点目標	評価項目	令和04年度更新　具体的な方策または項目を評価する具体的な指標	令和04年度の実施状況　　期末 R5, 3月	職員評価	職員コメント　◇：提言　▲：改善　集計・まとめ　期末　3月	関係者評価	関係者コメント　◇：提言　▲：改善　集計・まとめ　期末　3月
Ⅰ知育の推進	授業の充実と 難関大学進学に 向け啓発・ 学びの自覚向上	① 数・英等で発展学習実施　3grp編成と運行の工夫 英検3/P2／2級指導（放課後プロジェクト時） ② 国・数・英等で反復学習、底上げ推進 ③ 補習補強の柔軟な実施、自己学習力の育成 ICT教育：スタディサプリ活用、ロイロの学級・教科への導入と活用 ④ 進路指導・講演等進路啓発指導を高校部職員、外部組織講師※・OBにより実施 ※MIRAI Project構想:M/P 企業と提携しキャリア教育推進 ⑤ 学力推移調査結果受取後の学級／学年指導 個別目標設定や情報共有（中高関係職員） ⑥ 授業時数や計画、副教材の見直し ⑦ 学習時間把握（スタディマーカー）と個別／一斉指導、学習課題調査とフィードバック(FB)による学校家庭間指導環境改善	① 各学年英数の3grp習熟度編成を行い、より目的的、タイムリーに指導した。 諸状況を鑑みつつ、各学力層の学力向上を積極的に狙っていく必要がある。 ② グループ毎の学習についてよく検討し、目標を定め共有したい。 ねらいを適切に確認して定期的に振り返りを行いたい。 ③ 放課後学習は、自習と指名補習を主に実施した。スタサプについては重点運用期間を設けー斉指導したほうが活用率自体は向上しそうである。ロイロ活用については機器は一通り揃ったので、各教科で活用事項を共有し一斉指導する部分を設けていくと機運が向上していくと思う。 ④ 2月にJ3対象進路講演、9月にJ2職業講話（海洋講演）を今年度も実施。 M／PではJ2に明治製菓より、J3に矢崎部品より講師を招き、プロジェクト学習を実施した。 ⑤ 実力テスト毎の結果について情報を共有し、事前事後指導や授業改善に活かした。 教科の状況をを学年・中学部とより明確に共有し、学力向上のための対策を計画的に実施していく必要がある。 ⑥ 副教材の目立った変更は特に行わなかった。 授業時数とシラバス対応について検討の余地がある。 ⑦ スダディマーカーを終了し、明誠ダイアリーに学習計画や記録等を書き込むように変更した。運用方法をさらに工夫し学習の動機づけを改善していきたい。 共通認識のもと活用方法は統一したい。現状では第三者に分かりにくい面があり、活用状況を懇談会等で広報できるようにしておいた方がよい。	A　24% B　62% C　7% D　7%	・ 実力テストでの情報共有し、仲間と切磋琢磨できるようにしている。 ・ 基礎力の充実が大学進学実績に結びついている ・ 中学2年生実施の秋のオータムキャンプ等の機会を設け、東京大学進学のOBが語る明誠中・高校での学びの6年間実践等、具体的な場を設定して意識付けがなされている。 ◇ 高校に進学した内進生の先輩たちとの交流、語らいの場を設定してみてはどうどうか…。 ・ グループ学習等を取り入れて、他の人の意見やコミュニケーションがとれている。 ・ 習熟度学習の推進、補習補強の実施、ロイロノートの活用など積極的に取り組んでいる。 ・ 難関大学に向けた啓発という点では、内進生の進路意識向上につながっていると感じる。 ▲ 英数科目を中心とする6年間の指導計画が必要である。中高一貫校としてのメリットが活かされていない。 ▲ 放課後プロジェクトの未実施。 ◇ 基礎力の向上をもっとしてもいいと思う ・ 難関大学に向けた啓発という点では、内進生の進路意識向上につながっていると感じる。 ▲ 英数科目を中心とする6年間の指導計画が必要である。中高一貫校としてのメリットが活かされていない。 ▲ 放課後プロジェクトの未実施。 ◇ 基礎力の向上をもっとしてもいいと思う ▲ 難関大学に向けた啓発は十分に行えていないように感じる。同時に英語（自分は英語科なので英語の授業しかしらないが）では私立の6年間で学ぶという強みを活かしきれていない。6年間のカリキュラムを作成する等して、内進生が中心となり進学実績を伸ばしていくべき。 ◇ 具体的な数値目標の設定や、勉強時間確保の手立てを考え高校とも連携をする必要がある。 ▲ 中学生で授業に集中できてない生徒が多いことに驚く。意欲向上に要工夫である。保護者は学力を向上させることを期待して入学させているはず。 ・ 関わっていないため評価ができません。 ◇ 中高一貫6年という繋がりはどうか。中学と高校の連携を図り、情報も伝達しやすいようにしたい。	A　14% B　71% C　14% D　0%	◇ スダディサプリの活用状況を共有し、対応を検討してほしい。 ▲ 高校生との関わりをもっと増やし、勉強の方法や生活の仕方など伝えていってほしい。 ▲ 3グループ展開の英数科目では、授業の精度や分かりやすなど注意をしてもらいたい。 ◇ 様々な手段を利用し、中高一貫ならではの学力向上に継続的に努めてほしい。 ▲ 明誠中として誇れるものを持つべき。教員もプロとして責任と誇りを堅持し、改善に努力してほしい。 ・ 中学時からの難関大学に向けた前向きな取り組みが明誠中の強みになっている。 ◇ 中高一貫のメリットを大いに活かしてもらいたい。 ▲ 生徒の資質は様々であるが、学校としての方向性を明確に持っていくことが重要であろう。
	外部模試等で 学力把握 在籍 J3　68名 J2　75名 J1　72名	① ベネッセ学力推移調査三科目受験と事後指導 64以上　60以上　50以上　40以上 J3　6%　4%　25%　44% J2　1%　5%　23%　32% J1　1%　1%　29%　44% J1は第一四半期後設定する。 ※　それぞれの数値は単純の数値を表す ② 実力確認テスト（明誠高校入試）受験 J3：目標進路の学力水準達成70%以上　五科目 J2：基礎基本問題の習熟と確認　三科目 ③ 英検受験 年度末（2月）の時点 【J3　準2級以上　46%　3級　28％ 】 【J2　3級以上　40%　4級　49%　】 【J1　4級以上　35%　5級　35％ 】 J1は第一四半期後目標設定する。 ※　それぞれの数値は単純の数値を表す ※（　）内の数値は昨年度の数値を表す ④ 各試験結果受取後の一斉学級／学年指導 情報や目標の共有（中学部・高等部・教科担当）	① J3　9月②　64以上-6%　60以上-6%　50以上-23%　40以上-42% 4月①　64以上-3%　60以上-7%　50以上-13%　40以上-53% ボトムアップに課題が残る。数英の3グループ編成をさらに活用したい。 早い啓発と具体的な対策が大切であることを再認識した。 J2　1月③　64以上-0%　60以上-1%　50以上-24%　40以上-39% 9月②　64以上-0%　60以上-3%　50以上-22%　40以上-41% 4月①　64以上-3%　60以上-3%　50以上-22%　40以上-39% 見えにくい面もあるが徐々に向上している流れはあるが、上位層や中上位層の拡大に難題が残る。また、学習姿勢が改善されない者もおり、根気強く諸点ケアしていくことが大いに求められる。 J1　1月③　64以上-1%　60以上-3%　50以上-24%　40以上-43% 9月②　64以上-0%　60以上-3%　50以上-26%　40以上-41% 4月①　64以上-0%　60以上-1%　50以上-33%　40以上-39% 上位層が若干向上した。引き続き同様にボトムアップを目指していきたい。 啓発を行いつつ、生徒別に具体的に目標を持たせ指導していきたい。 ② J3　目標進路の学力水準達成率は約50%で目標を割る。要因は各教科の難化と中下位層の準備不足である。啓発と動機づけ、トレーニングについて課題が残る。 J2　既習事項に対してできる範囲内で解答していることを確認できた。 3年進級時のスタートの切り方と年間学習計画に留意しつつ目的的に対策を行っていきたい。 ③ J3　2月 2級-12(4)%　準2級-24(38)%　3級-37(37)%　4級-15(16)%　5級-10(3)% 10月 2級- 6(3)%　準2級-25(33)%　3級-37(36)%　4級-16(23)%　5級-13(3)% 準1級- 0(0)% 概ね底上げは継続され、上位級への受験意欲が若干高まった観がある。 J2　2月 2級-1(0)%　準2級-9(13)%　3級-32(36)%　4級-44(30)%　5級-16(19)% 10月 2級- 1(0)%　準2級-3(7)%　3級-27(30)%　4級-47 (40)%　5級-17(20)% 底上げ観が出ている。上位層への啓発や中位層への手厚いケアが引き続き求められる。 J1　2月　2級-0(0)%　準2級-0(1)%　3級-14(9)%　4級-25(33)%　5級-32(31)% 10月　2級-0(0)%　準2級-0(1) %　3級-7(5) %　4級-19(12) %　5級-35(36) % 後期になり受験意欲が比較的向上した。焦らせることなくコツコツと歩ませたい。 ④ 現状把握と何をいつからいつまでにといった「納期」の共通認識と一斉指導が大事。	A　27% B　56% C　10% D　7%	・ 自分の実力を把握し自分の位置を確認できている。 ・ 定期的に実施されているベネッセ模試等の振り返りをさらに活用し、教科毎の各単元学習にさらに活用していく必要があると思われる。 ・ 外部模試をしっかり行うことで、現状把握ができている。 ・ 上位層の向上が若干だがみられる。 ・ 下位層の実力向上は時間がかかる。数字に表れにくいが、下位層の学習意欲が向上していれば後々結果につながってくる。 ◇ 学力下位層をどう指導するかが大きな課題。入学時に学力試験の基準を厳しくする必要もあるのではないか。もしくは高校に進学する時点で英数科進学には学校として一定の基準を設けるべきである。 ▲ 学年や部などの単位でいいので全体で分析する時間を確保したい 学力を把握しているだけで、具体的な対策や振り返りを実施できているのか疑問に感じる。 ・ 中上位層の拡大が課題。実力確認テストの結果が例年よりも低いと感じた。 ▲ 模試対策が薄い。	A　0% B　100% C　0% D　0%	・ 外部模試で自分の立ち位置が全国的にわかるのは良い。 ・ 外部模試や英検受験など定着している。これらは生徒がよい学習習慣を身につけることに繋がっている。 ▲ 模試は結果の把握だけでは、対応は十分ではない。結果をどう活かしていくのか検討してもらいたい。 ▲ 模試の結果をどう活かしているのか、効果の面においてさらに説明がほしい。 ◇ 模試等やりっぱなしではもったいない。事前や事後について一つ一つ振り返ってみたらどうか。

Ⅰ 知育の推進	生きる力や総合力を はぐくむ活動の設定	① 学習・体験活動等とその目標成果の整理・広報・ 見える化・発表等の総合力育成の場を工夫設定 行事ごとの一斉指導　手立ての引き継ぎ ・MIRAI Project構想：企業と提携しキャリア教育推進 J2・J3 10月～2月 ・中学校体験入学プレゼンとツアー実施 J2　6月 ・母校訪問によるコミュニケーションとPR J1　7・8月 ・説明会のプレゼン担当や体験学習会の講師／助手 内進生J1～S1　通年 ② 実行委員会を組織した委員会・生徒活動 実行委員会と委員会の主体的な目標設定・活動の の見える化 ③ 発達段階や興味を踏まえ、朝読書を奨励する。 ビブリオバトル等発展的活動の取り組み 成果のアウトプットと共有、周知	① 自己振りかえりシートは通年活用ベースに戻り、全体の安定感が出たと思う。 行事レポートの作成などタイムリーに実践された。一方内容的につっこみが多少 欠ける印象はあった。現状では事前指導における一斉のガイダンスが特に大事だと 考えることが多い。ねらいの理解と共通認識を十分に確保した上で指導し、成長を 促したい。 J1の母校訪問は全方位的に学びの機会があり、良い経験となった。根気強くサポート を行い、諸点経験値を高めていくことができた。時期や手立ても適切だったと思う。 J2の中学体験入学ツアーでは小学生たちを比較的適切にリードすることができた。 事後指導で振り返りをよく行わせ内容や手立てを再考させつつ、自分たちや周囲の 理解もより深めさせたい。 説明会や体験学習会で登壇したり、講師助手として活躍したり、有志活動が積極化し 生徒としての自覚や責任、行動力が向上した。 ② 中学生徒会独自の取り組みが主体的に継続的に実践された。1年間の謝恩会(2月)、 3送会(3月)などとても意欲的であった。他委員会にも積極性が波及することを期待。 ③ 読書の成果を比較共有する機会を設け、集団育成にもつなげていきたい。 文庫本を携帯する生徒を昨年度より見かけるようになった。 後期に入りタガが緩んだ状況も散見され、臨機応変な対応が求められる。	A　34% B　59% C　3% D　4%	・ 自己振り返りシートを記入し、自己の見つめなおしをできている。 ・ 生徒会メンバーを中心に、3年生を送る会、球技大会の実行運営等に 携わり、成長していく場を提供できたのではないか。 ・ 中学2年の体験入学ツアーや、説明会のプレゼンテーションなどで、 主体的・積極的な活動がみられる。 ・ 様々な行事を多くしているのは他の公立学校とは違っていていいと思う ▲ 進捗状況を確認すること不十分だった。 ・ 説明会のプレゼン等を行うことにより、大学受験に向けての良い体験と。 ・ 中学生徒会の存在が生徒の主体性に良い影響を与え始めている。これが 中学部全体に波及することを期待する。	A 29% B 71% C　0% D　0%	・ 母校訪問はとても良い機会だったと聞いている。説明会でのプレゼンも楽しく取り組め、 明誠生としての自覚も持てたのではないか。 ・ 母校訪問、入学体験ツアーなど他の中学では見られない経験ができてよかった。 ▲ 読書にまつわる活動について色々考えてほしい。
	日本文化理解と 国際教養養成 （総合学習）	① 日本文化理解行事実施【（2）回／年】 J1 自然体験、富士山学習、地域社会調べ・探訪 J2 寺社宿泊研修、企業探訪、地域・大都市探訪 J3 寺社・精神文化調べ、企業研修、地域・古都研修 ② 講演や交流会の実施・探求活動 J1　郷土・企業 J2　医療・企業・進路 J3　医療・企業・進路 ③ 英会話授業【週１回】とアウトプット実践 J1～J3 ④ 禅寺の活用 ⑤ 日本文化・国際教養講話／講演実施	① J1　4月国立青少年交流の家研修、10月竜ヶ岩洞、浜名湖遊覧クルーズ、 ヤマハイノベーションロード、中田島砂丘等見学。久々に県西部探訪が復活。 富士山学習を基に、柔軟な観点から切りこんで郷土理解に繋げたい。 J2　4月可睡斎宿泊研修。　10月東京・横浜オータムキャンプ復活、 JICA（市ヶ谷）、科学技術館（千代田区）、東京大学（文京区）卒業生講演、 東京G／Pホテルテーブルマナー学習（文京区）、JMU造船所（横浜市磯子区）、 中華街昼食、日本新聞館（中区）見学講習。企業研修と大学研修、卒業生講演等 一通り揃い、充実感が向上。バス4台で往復。 J3　4月小田原城／神奈川県立生命の星・地球博物館研修。久々に神奈川県西部 研修復活、好天で天守閣から絶景を鑑賞した。県外に出るのも良い視点を得られる。 10月関西修学旅行　4台のバスで往復（3年目）、 比較的オーソドックスな展開であった。3日目の班研修はタクシーを利用（3年目）。 事前事後指導の深め方について検討の余地があり。探求学習の事前事後指導 等とも重なり、やり繰りは容易でなないだろうが年間計画をより密にして対応して いきたい。 ② J1　7月母校（校長先生）訪問、10月ヤマハI/C訪問、12月「命の大切さを学ぶ教室」講演、 J2　10月「海洋講演」日本造船工業会、12月「命の大切さを学ぶ教室」講演、 10・11月「MIRAI Project　職業講演・模擬企画職業体験」明治製菓 10月内進生OB東大生による進路研修　オータムキャンプ時 J3　10・11月「MIRAI Project　職業講演・模擬企画職業体験」矢崎部品 12月「命の大切さを学ぶ教室」講演、3月S3卒業生進路講演 ③ TT授業及びスピーチ指導を継続。11月J3世界の国々、12月J2日本の各地、 1月J1静岡の各地など名勝、行事、食べ物について、班ごとにテーマを絞り、 各々ブースを設け、職員を招きプレゼンを行った。 ④ J2　4月可睡斎宿泊研修再開。学校生活や行事への波及効果を適切に狙っていきたい。 当該学年だけでなく全体指導の際にも意識していくことは大切。 ⑤ 10月にJ2対象に海洋講演を実施。オータムキャンプ時横浜のJMU 磯子工場を見学 したが、この講演は良い事前学習となった。	A　30% B　53% C　7% D　10%	・ 禅寺の活用をしている。 ・ 教員側にもっとパワーが必要。 ・ 多くのところに出かけて、体験することで学ぶことは多くあると感じられる。 ・ 成果として現れにくいが、各学年で様々な体験授業や研修を実施している。 ◇ 日本の文化や産業についての学びがある。また国際社会の中での日本・ 日本人のあり様についてさらに学びを広げてもらいたい。 ・ 英語会話など工夫されている ◇ コロナ禍ではやむを得ない状況下ではあったが、例えば修学旅行の機会を 利用して、現地を訪れている外国の方々との積極的な会話表現等、旅行の しおりに具体的な交流を記入していく等、創意工夫を重ねていくことは可能 かと思われる。	A 29% B 51% C　0% D　0%	・ 様々な体験の機会があり驚きである。生徒達も日常にメリハリが出ているのではないか。 ▲ よく活動していると思う。他方、職員自身の自己評価が低すぎるのではないか。 ・ コロナ禍でも行事が実施されて良かった。J1の母校訪問は生徒・学校の為にも良い。 自信に繋がる。 ◇ 数値で評価がしにくいが、日本文化理解は大切である。たいへんだと思うが、 計画的にコツコツと取り組んでいってほしい。 ・ ホテルテーブルマナー学習は有難い。特に大学にいってから有難みが身に染みたと 息子が述べていた。
Ⅱ 徳育の充実	基本的生活習慣の 確立・ 理解と自己評価	① 身だしなみと挨拶の指導 校風検査【1回／月】 ② TPOに合わせた所作・マナー・学習態度等を 発達段階をふまえて指導検証する 打合せ、中学部会等にて 情報交換し一斉指導の手立てを共有する ③ 私物貴重品管理（金銭、腕時計、スマホ・タブレット等） 整理整頓・清掃指導の徹底と振り返り ④ 欠席・遅刻・早退の減少 基本的生活習慣の確認理解と維持 ⑤ 基本的生活習慣近況について情報発信	① 年度当初4月の1年生向けの集会指導の必要性を感じる。 月例校風検査は男女別で継続実施。頭髪以外は担任によるフォロー指導を 行った。若干指導ムラが見られることもあり留意していきたい。 ② 生徒の精神的な成熟度や心構えにおいて発達段階の差が当然あり、 共通認識を保ちつつ辛抱強く指導に臨んでいく必要がある。 今年度は特にSNS対策や啓発に関して合同指導を折々行い、 トラブルの芽を摘んだ。中高一貫の意義を踏まえ、妥協することなく 対面指導を即実践していきたい。 ③ 限定的に一部私物の整理整頓や管理が甘い生徒がいるものの、 概ね適切に指導を継続することができた。共通認識と意思統一がまだ 望まれる面もあり引き続き実践力の向上に取り組んでいく必要がある。 ④ 欠席・遅刻・早退は前期においては昨年度に比べ減少傾向であったものの、 後期前半ではコロナや流感の影響で多少増加傾向に転じた。著しい怠学等は見ら は見られなかったが、生活習慣が若干緩み学習にも影響が出た生徒が一部いた。 ⑤ 各種アンケート、明誠ダイアリ等からの情報や諸活動状況を日常的に共有、 対策を検討した。目立ったことに関しては即時臨機応変に対応した。	A　25% B　61% C　7% D　7%	・ 生活習慣が整っている ▲ 基本的生活習慣の理解はしているが、確立はできてはいない。言動と行動 が一致できるようにしていきたい。 ・ 朝のホームルーム活動の場を活かして、生徒一人一人に目を向けていく ことが、さらに不可欠かと思われる。 ・ コロナ仕様の生活になってしまっている子どもたちは7時間授業や友人と 実際に会って生活することに疲れてしまう。今後に注視していきたい。 ・ 服装や挨拶などは良好。 ・ 私物の整理・整頓、ロッカーについてはやや乱れもあった。 ▲ 全体としては整っているが、清掃活動については時々点検が不十分な ことがあった。 ・ 中学生であり、もっと厳しく指導が必要。教員と友達では指導もできない。 ◇ しっかりしている生徒が増えた半面、生活力が不足している生徒も増えた ▲ 中1、中2ともにタブレットの使用の仕方に指導が必要だと感じた。 ▲ 中3においてはスマホの使用が認められた授業がある日に、授業以外 （放課後等）にも使用している姿があったため、教科担当および中学部 で指導が必要だと感じた。	A 14% B 71% C 14% D　0%	▲ クロームブックの活用状況について近況報告がほしい。 ▲ 躾についても中高一貫ならではのものを意識してほしい。 ▲ ロールモデルとして高校生をよく見つめるよう指導してほしい。 ▲ 校風検査はぶれが生じないよう、継続的に努めてほしい。 ▲ 躾は藤枝学園の伝統であることを再認識すべき。

	特設道徳の充実と行動化	① 本校理念の浸透、一斉道徳講話実施 【6回／年】 ② ボランティアの実施 ③ 自律性と社会性を培う場を設定し 実践力行動力向上を図る リーダーシップ・フォロワーシップ涵養 ④ 交通マナーの指導と実践 交通安全教室実施 ⑤ 道徳教科書ノートを年間計画で使用 学習の記録を振り返り、共有する ⑥ 情報端末使用時の人権問題啓発指導 講演実施と集会等で啓発指導 ⑦「いじめ」皆無の指導 【調査3回／年】 三配りの精神の涵養 ⑧ 成果や伸長について情報発信	① コロナの影響で全学年対象の講話は控えたが、1･2年合同実施2回、 3年合同実施2回、1年学級実施2回、の形で臨機応変に対応して実施。 ② 中学生全員参加の取り組みは未実施となった。一方、継続的に 説明会・体験学習会等へ登壇するなど積極的な活動を行う生徒もいる。 ③ 主要行事の他に、中学入試関連行事・MIRAI Project探求活動等において 自主・自立の精神を培い、発揮することができた。継続することが大事。 ④ 5月に警察による交通安全教室を体育館で実施した。座学のみ。 12月には「命の大切さを学ぶ教室」を中高全校で受講し意識を高めた。 ⑤ 教科書・ノートの活用が昨年度より進んだ。PCやスクリーンも使われる ようになった。年間計画に基づき狙いを一層明確化し実施していきたい。 ⑥ 5月中高全校の周年記念で吉本興業のかじがや氏によるネット社会講演を 受講し、ネット社会の注意点について学んだ。7月においても中高全校で ネット依存対策講座（webアンケート実施）を受講し、専門家による現状分析を 視聴し、自己分析やメタ認知を促すことができた。 ⑦「いじめアンケート」と「生活アンケート」の実施により、生徒の生の声を聞く機会が 増加し、生徒指導がより密になったと感じる。中学部単独の講演は未実施だが、 中高全校での講演や中学部の集会指導を通して啓発指導を適切に行えた。 例年同様油断禁物であることに変わりはない。 ⑧ 部会での情報共有や懇談会・面談を適切に機能させた。中学部通信の発行は 滞り、この点は要検討。	A 27% B 58% C 6% D 9%	・ 特に情報リテラシーへの力の入り方が印象に残った。 ・ 元気のよい挨拶はできている。交通マナーに関しては、守らなければ いけない点が見られる。 ◇ 担任の技量、裁量に任されていることが多く、全体としての方向性を さらに示していくことが必要と思われる。 ・ 地域ボランティアを取り入れていく。 ・ 未来プロジェクトは新たな試みだったか。生徒の成長に繋げられることを 期待する。 ◇ 交通安全指導ではより一層具体的な危険性、危険の予知について指導 してはどうか。 ◇ 地域との連携をもう少し密にし、地元から愛される学校にすることができ るような行事があってもいいと思う。 ・ 一斉講話が生徒にあまり伝わっていないように見受けられた。 ▲ 将来を見据えた指導されていない	A 14% B 86% C 0% D 0%	・ いじめの対応等よく配慮されていると思う。 ▲ 高校部において、外部進学生より内部進学生の方が道徳心が低いように感じる。 ◇ 指導を自信を持っておこない、徹底してほしい。 ・ 交通指導は常日頃から。 ◇ 交通マナーについて、一部の生徒の危険行為が大事故になりかねない。厳しい 指導をお願いしたい。 ◇ 大学入試において、主体性をみられる場面が多々ある。表現力を磨く機会を 検討するとよいと思う。
Ⅱ 徳育の充実	個の尊重と主体性の醸成	① 情報交換で個の把握 【定例部会実施】 ② メイセイダイアリの点検、熟読とコメント ③ 個別指導には、養護・カウンセラー・ 生徒課等チームの活用 ④ 中学生生徒理解研修会 【全職員で実施】 成長面・プラス面も共有 ⑤ 心理検査の実施と評価の活用 ⑥ 随時良い点や現れをフィートバック、全体で共有	① 日常的かつ定期的な情報交換により、迅速な生徒指導が可能。 協働体制を維持しながら、生徒個別の対応に配慮した。 ② 生活帳を有効に活用し、意思疎通や問題解決に効果的につなげた。 学年により点検の頻度が異なり、検討したほうがよいと思う。 ③ カウンセリングの活用が徐々に自然に進み定着した。 外部組織の知見の有効活用が常套手段となり、精度向上した。 ④ 行動のあらわれを共有し、近況把握や生徒理解の向上に努めた。 中高一貫の生徒指導力向上に資するという目的を都度確認したい。 ⑤ KJQ等本年度は未実施も、ネットアンケートや生活アンケートなどの結果 により各々の生徒の傾向を複合的に観察することができた。 これらの情報の共有がとりわけ功を奏したと考える。 ⑥ 職員間や家庭と学校間のコミュニケーションの風通しのおかげで 情報を共有し、協同していく環境を維持することができた。	A 27% B 57% C 10% D 6%	・ 個を尊重し育てることができている。 ・ 生徒個々の様子を良く把握できていると思う。 ・ 個を大切にしている様子が見られた ・ トラブルこそ起こっているが，水面下ではなく目の届く範囲で起こり，その都度， 適切な指導がなされていると感じる。 ◇ 明誠ダイアリの活用、学級日誌のちょっとしたコメントのキャッチボール等、 負担は否めないが継続していくことが必要である。 ・ ダイアリーを使用し、個人のことを理解できる。 ▲ 生徒の情報交換の際は教科担当や養護教諭も必要だと思う。教員を見て 態度を変える生徒や、配慮が必要な生徒に対して対応できていない部分が あると感じる。	A 0% B 100% C 0% D 0%	◇ 明誠ダイアリーの活用についてもっと検討してもらいたい（先生の負担が大きいことは わかる）。 ・ 個々を大切にきめ細かい指導をすることは理想的だと思う。 ◇ ある程度の指導だけでは不十分ではないか。 ・ 色々な角度から個々の生徒の観察をしていることが伺える。 ・ 学校と家庭の信頼関係の構築は大事。
Ⅲ 健康な体の育成	団体行事の用意 （団体行動や行事運営の基本も学習）	① スポーツデイ実施 【参加率98%以上、（2）回／年】 相手・チームメイト・周囲への理解・敬意調和と切磋琢磨 ② 耐寒持久走取り組みによる身心の錬磨 事前の安定した生活習慣・体育での的確な準備啓発 【参加率95%以上】 ③ 体育大会／中学部運動会の活用 チームワーク醸成・団体種目の記録向上 ④ 武道奨励 時数の確保 武道実施ねらいの理解と浸透 ⑤ 部活動奨励 【参加率85%以上】 ⑥ ダンスデイ実施 明朗快活爽やかで、円滑かつ規律ある運行 周囲への理解と感謝の気持ち	① 9月 今回は恒例のサッカーやドッジボールなどの球技ではなく、中学 生徒会を中心に中学部運動会を企画し、リレー、綱引き、借り物競争、 〇×クイズ等を男女学年混合形式で実施した。コロナの影響で延期後実施。 3月サッカー（男子）とドッジボール（女子）を実施予定。 参加率達成。 ② コロナ小康状態により栃山川外周コースを再開することができた。運営面で の滞り等もほとんどなく協力的で前向きな運びとなったと思う。通常の体育の 授業の成果もあり、生徒たちは適切にランニングしていた。実施後の学校生活の 出席状況が好転しており生徒たちの逞しさが感じられ印象的であった。参加率達成。 ③ 中高体育大会は昨年同様フィールド内にて行進を簡略し実施。控えめな印象は 否めないが、できる範囲内で適切に各種競技を行っていると感じる。中学部運動会では 競技性よりもむしろコミュニケーション性の方に重きが置かれた。 ④ 男子は柔道の指導を実施した。 ねらいの理解と浸透について手だてを引き続き検討していきたい。 ⑤ スクールカラーを涵養し、集団育成する好機として参加を促している。 加入率： J11: 97%, J12: 94%, J21: 97%, J22: 89%, J31: 85% J32: 100% 全体：94% 2年連続前年度より3%増加。 概ね参加意欲が高い（外部クラブ参加は除く）。 ⑥ コロナ小康状態で11月予定通り実施。参観者は100名超で好評であった。 コロナ対策を行い、参観者は無論、生徒も適切に行動した。 節度を適度に保ち明るく活発に演技と鑑賞を楽しむことができたと思う。 進行面はもうひと頑張りしてほしい。前後の挨拶を工夫した方がさらによい だろう。事前指導の精度を確保したい。	A 46% B 47% C 1% D 6%	・ 団体行動や行事運営の基本を知り、行動に移せている。 ・ 部活動や、スポーツデイ、ダンスデイ等の機会を活かした内面の成長の一助 になっているかと思う。 ◇ 青藍祭への中学生の活動、取り組みがもっとみられてもよいのではないか。 ◇ 行事を大切にし、クラスでの達成感を理解させることが大切。 ・ 充実した計画が見られた ▲ 部活動への参加率（活動率）があまりよくない。	A 29% B 71% C 0% D 0%	◇ 部活動参加の意義について時折啓発してみてはどうか。 ◇ 中学時代は特に勉強と同様に力を入れてほしい分野である。

Ⅳ 豊かな生活の追及	特別活動や課外活動の準備と充実	① キャリア教育の一斉の主体的計画的取り組み 探求:MIRAI Project　MD内に設定 ② 青藍祭に、部・学年・学級で参加 創る力や実践力を磨く場とする リーダーシップ・フォロワーシップ涵養 展示物には価値観教育への成果を記す ③ フィールドワーク 【（2）回／年】、芸術鑑賞 自身の思考力や発想力向上に資する体験 学習を行う。 事前事後指導の充実。 ④ 行事や活動のまとめと発表・展示 学びについて自己分析し、学校・日常生活の改善 に向けてヒントを得る。 ⑤ 学習集団の向上（行事・授業等活用） プレゼンや議論を活かし、コミュニケーション 力や創意工夫する力、洞察力を上げる。 学年混成集団で活動することにより、自他への 関心を深め、共通体験の価値の理解を深める ⑥ 各種団体の文芸コンテストに参加 想像力を発揮し、自他の理解を深め、お互いに 学び合う仲間であることを自覚する。 ⑦ 自分の長所・短所について行事ごとに振り返り、 自尊感情や自己有用感獲得に繋がるヒントを得る。	① 主に後期の「総合」の時間を十数時間配当しキャリア教育を探求活動の 視点から実施した。学年を13グループに分け、それぞれ課題を見つけ、 解決する手法を模索した。ガイダンスと講評など（株）矢崎部品様にご指導 頂いた。生徒たちは主体的にGWを行い、答えを導き出した。 ② J1はオリエンテーションキャンプ、J2は可睡斎の展示をおこなった。 J3はアトラクションを展開、集団育成の好機となった。 ③ 4月と10月に予定通り各学年それぞれ行事を実施することができた。 タイムリーに事前事後指導を行い、生徒たちに考察を促した。 今年度は積極的に多彩な活動に取り組め、充実した。 芸術鑑賞教室ではRPGエンターテインメントによる最先端テクノロジーショーが 行われた。パフォーマンスを通して参加型のプログラミングを体験する機会と なり、今までにないパターンの教室になったと思う。 ④ ワークシートによる掲示が適時に行われたり、クロームブックによるプレゼン 作成が積極的に進められたり、アウトプットの機会は適度に確保されたといえる。 プレゼンでは必然的にチームワーク中心になり客観的に思考し、 コミュニケーションをとることが求められるため、分析力やメタ認知能力を涵養し つつ、生活のクオリティ向上にも繋がっていったと考える。 ⑤ 一つ一つの活動の重点目標の繋がりを踏まえ、年間の運営を意識することに より、年間を通して育てる生徒像を明確に学年と部で共通認識しておく必要が ある。取り組む活動が充実してきていることを考慮すると、振り返りも含めて 活動を充実させていきたい。スポット企画になると教育効果が分かりにくくなる ので注意する必要ある。 ⑥ 定番のコンテスト等参加を継続していきたい。良い作品を発表鑑賞する機会を設け、 他者やコンテストの狙いの理解を深めることによって集団育成を促進するチャンスに したい。 ⑦ ワークシートの自己分析において、「自分は～するようになった。」、 「他者の～を～考えるようになった。」などといった到達点（自己認知）を表現させ、 見聞に終始しないよう活動や行事の振り返りを行わせたい。	A　44% B　45% C　2% D　9%	・ 青藍祭や様々な行事に関して積極的に参加し行動に移せている。 ・ 中学2年生が実施した明治との商品開発のプレゼン機会等、学びの場を 実践できたのではないか。 ・ MIRAI Projectは今後も続けていくべき。DGWPのようなことを無料で実施 できるのはありがたい。 ・ 未来プロジェクトやクロームブックの活用など、様々な仕掛けがあり、学校 生活の充実につながっているのではないか。	A 29% B 71% C　0% D　0%	・ 先生方のご指導から中学生個々を理解し、指導されている様子が 伺える。 ◇ 大学に合格することが第一となって、「どう生きたいか」について学ぶ機会が あった方がよい。
Ⅴ 家庭・地域との連携	対話の増加	① 面談の奨励（希望面談も用意）【4回／年】 ② 懇談会・保護者会等実施 ③ 行事関係文書・アンケート等配布・配信 【2週間以上前】 ④ 内進高校生の情報も含め生徒・中学部近況の発信 中学部だよりや説明会等の活用	① 4月新年度個別面談①、7・8月夏休み三者面談、11月個別面談②、 6・11月オープンキャンパス期間希望面談、11月～2月適宜個別面談 による進級指導等実施。コロナの影響に遮られることなく対話の機会は確保。 ② 6月　地区別懇談会（交通安全対策・夏期の準備）、 9月　J3修学旅行説明会（学年懇談会・進級準備含む） 2月　学年学級懇談会　　参加率5～8割前後。 ③ 各行事2週間前後前に通知を配布。さくら連絡網による通知は常套 手段として活用した。それぞれの使用について整理しておくとよいと 考える。健康関係や行事の変更追加等にさくら連絡網を活用した。 ④ 3月J2J3対象に大学進学の基本や現状について説明を行い 目標の再確認と進路意識の高揚を図った。 内進生独自の進路ガイダンスの在り方を探りたい。啓発機会は早期から 確保していく必要がある。	A　27% B　54% C　3% D　16%	・ 丁寧な電話対応が垣間見られた ◇ スマートフォンの普及により、対話がなくなる中、会話を増やせるようにして いきたい。 ・ 日常的に担任等による保護者対応や、本人との面談指導等、負担は大きい が実践できているのではないか。 ◇ 中学部通信の復活を望む声が多い ・ 保護者との会話が増えると、より理解ができる。 ▲ 家庭との連絡は密に行っているが、負担が多く保護者への対応において もっと協働意識が必要なのでは。	A　0% B 86% C 14% D　0%	▲ 個別面談等担任によって差があるようだ。この点については配慮してもらいたい。 ◇ 生徒、家庭、先生方の連携について常に振り返って頂きたい。 ▲ 中学部通信を復活させてほしい。
	広報活動の充実	① 中高通信文書等の発行【5回以上／年】 ② 子供安全連絡網・SNSの活用 さくら連絡網・ロイロ ③ オープンキャンパスや説明会等でのアンケート実施 ④ 行事や発表会の開放	① 定期的に時節の学校活動の近況とそれにまつわるニュース等を紹介し 啓発と学校理解を促進した。中学部通信等の発出は棚上げとなった。 ② コロナ対応等、休校や行事予定変更に関する保護者への連絡手段として活用し よく機能し、常套手段となった。 ③ アンケート内の各意見・提案や質問に対し適切に対応した。 参加率は50%前後で推移している。 ④ 青藍祭、体育大会、ダンスデイ、持久走会、芸術鑑賞会などを開放。 通知を配布し周知した。ダンスデイは今年度も好況、フィールドワークの 報告会等は他の行事の準備や推進のため本年度は無し。 MIRAI Projectの発表会を探究活動の成果として開放するのも検討していきたい。 広義では、中学校体験入学や理科・英語体験学習会も行事の開放に含まれ ると思う。上級生や内進の高校生がリーダーシップを取っている姿を見て もらうことは広報の充実にも資する。	A　36% B　47% C　7% D　10%	・ 英語・理科などの体験活動を通してたくさんの小学生が来ているのはいいこと だと思う ◇ さくら連絡網を活用し、もっと保護者に通知してもよいと思う。 ◇ 生徒募集と絡め、近隣の小学校、中学校へさらに働きかけて、藤枝明誠の アピールを保護者に対して充実させていく場が欲しい。	A 14% B 86% C　0% D　0%	◇ 小学校へのオープンキャンパスや理科体験のPRについてまだ工夫の余地が あると思う。

Ⅵ 生徒募集	渉外活動の充実	① 説明会、体験学習会・講習会等実施 オープンテスト実施 アンケート結果の活用（改善・FB・PR等） 現役生徒の活用 ② 小学校や塾への渉外活動 ③ 各種行事の活用 ④ リーフレット・ポスター作成	① ・説明会　5/8:40世帯、6/18:61名、7/9:76名、8/6:85名、8/20:約50名、 10/2:84名、10/22:50名、11/5:約110名 オープンテストや体験学習会と同時開催し、関心を高めた。 新しい情報を生徒が登壇し伝えることにより、保護者に訴えかけ学校理解 を深めた。延べ数は前年度より若干減少した。 ・6年理科体験学習会　8/20：37　前年比　100% ・講習会　①9/14 :43名（申込49）,②10/12 :57名（申込59）　②減　前年比　94% ・オープン①8/6 :82名（申込85）、②10/2 :79名（申込81） ③11/5 :84名　②③で約2割減少。　前年比　92% ・入試　一次　79名 :単58　併21　二次　5名：単5　前年比　99% 募集定員70名になり5年目、62名入学予定。　併願が9名増加。 単願率が86%から75%に減少（一昨年と同水準）。女子は40%から50%に増加。 HPの事前申し込みを主にリーフレット・Tel・e-maill等にて受け付けた。また適時 DM、ちらしを出したり、適宜TLによる勧誘相談活動を展開した。年度中盤以降の 方策について検討の余地が残る。 ・4・5年説明会　7/9 :76名,　10/22 :延べ約50名,　2/23 :約100名 ・4・5年体験学習会　英語10/22 ：36名（申込38）　前年比　70% 理科　7/9 :67名（申込69）, 2/23 :94名　前年比　100 % 体験学習会は申込に締切りを設けている。 生徒の登壇や動画の活用など変化を持たせる部分にも留意し、共感関心を高める 工夫を凝らした。またアンケートにより参加者の情報収集に努めた。 ② 小学校訪問約100校。　5・6月（学園祭前）・7月（理科体験前）・10月（英語体験前）、 、2月（理科体験前）のを基本として訪問。5月は訪問約束を行った上訪問。 志榛・小笠・静岡地区諸々の塾を訪問。「学校案内」・「入試行事リーフ レット」・学園祭／体験学習案内・通学バス案内・通学費補助案内等配布。 ③ 学園祭、定期演奏会等学校関係者に対して招待した。 ④ 入試行事年間予定リーフレットに加え、各種リーフ（講習会・オープンテスト・ 体験学習会・通学補助支給等）をひと月以上前から配布乃至送付した。 体験学習会用自家製ポスターを校内外で掲示推進した。	A　42% B　48% C　4% D　6%	・ 地域の学校に紙を配り、理科の実験に参加するなど、地域の方々に興味を 持っていただけるようにしている。 ・ 非常に精力的に実施されていると思います。 ・ コロナ禍の経済的な課題など地方の私立中学校としてはとても苦しい状況下 でありながら善戦していると思う。 ・ 小学校3～4年生を対象とした理科教室など、本当に素晴らしいと思います。 ・ 多くのイベントが計画実施されていた ◇ 定期的に体験学習を行うのは良いと思いますが、中学部の先生方の負担が 大きいのではないかと心配です。 ◇ 高校の説明会は中学部の先生方も参加なのに対して、体験学習はほとんど 中学部で実施しているかつ回数も多いため、負担が大きい気がします。 ◇ 渉外活動の多さが中学部の教員の大きな負担になっている。生徒募集行事の 精選や高校部との協力などにより、負担を減らすことを考えた方が良いと思う。 ◇ 各教科の体験授業やオープンテスト等を通じてアピール活動の場を提供でき ているが、今回の大学進学の実績をさらに前面に出してのアピールもあっても よいのではないか…。 ◇ 説明会だけでなく、理科体験などイベントが多いことで中学部の先生方の負担 が特に大きいので、高校の説明会参加の数を減らすか、高校部の教員がより 中学部のイベントに参加するか、そういった対応が必要だと考える。 ◇ 渉外海外の高校部の教員の稼働率を上げるべきではないか。	A　29% B　71% C　0% D　0%	◇ 広報と渉外活動と共に盛り上げており良いと思う。中高の連携が深まると より向上すると思う。 ▲ 提言をどれくらい検討しているのか。 ◇ 教育の質の向上と募集の充実は学校経営の両輪である。 ◇ 限定公開You Tubeなど活用してみては。 ◇ 小学生がアクセスできるルートも見える化すると間口が広がるだろうか。
Ⅶ 教育施設・ 設備の活用	快適な教育環境の 実現	① 教室内外整理整頓、施錠管理、 電源管理の徹底、 管理目的の理解 【放課後巡回　複数回／日】 ② 駐輪場管理 ③ 設備・備品の保全【放課後巡回　複数回／日】 ④ 防災教育と訓練の実施 【2回／年】	① 学級や学年集会等にて、身辺の管理・整理について指導を継続した。 概ね例年通り一定の水準を維持した。実践力を向上させるという意味 においてはねらいの理解に課題がまだ残っている。 内部進学生として強みを育成するために何を理解させ、実践させていく のかといった視点を常に念頭に置く必要がある。とても大事な当たり前の ことであり、また将来大きなメリットにもなる事柄である。 ② 男女に腕力差があり、使用方法上生徒会を中心に提案し改善を試みた。 自転車の施錠と鍵管理や私物の管理について時折紛失が報告されるなど 啓発指導も含めて検討の余地が残る。 ③ 適宜啓発しつつ、HR・集会指導や巡回指導を行い保全に努めた。 時折本館男子トイレの使用に際して粗相が見られたり、掃除備品を 適切に扱わなかったり、設備を破損するなど常軌を逸することも見ら れた。件数としては若干増加した。。 机椅子の保全については消耗状況を鑑みると注意して見ていく必要が ある。 ④ 4・9月防災避難訓練実施。ともに一次・二次避難訓練実施。	A　19% B　50% C　24% D　7%	◇ スタサプ・ロイロ・グーグル・明誠ダイアリーなど活用ツールを取捨選択しては。 ◇ ロイロは検討の余地あり。 ・ 一定水準はクリアしている。大きく乱れることはないが、ロッカーやトイレ 清掃などはもう少し指導できたのではないかと思う。 ▲ ICT機器の充実化（今は活用が不十分である）。 ・ 空調設備の工事等が急務であるが、洋式トイレの増設、教職員トイレの改善、 さらには新校舎設立に向けての将来へのビジョンがもっとあってもよいのでは ないか…。 ▲ 各自購入のタブレットを有効利用できているのか。 ▲ 10年以上前からエアコンの稼働状況が改善しない ▲ 教員の目が行き届かない場面での備品や設備の使い方がよくないため指導が 必要だと感じる。	A　0% B　71% C　14% D　14%	・ エアコン整備の推進はありがたい。 ・ 一定水準とは何を意味しているのか。 ◇ 登下校時の緊急避難について時折啓発してほしい。 ◇ 環境整備は引き続き継続してほしい。